

エコアクション21 環境経営レポート

令和5年度版



対象期間 令和 5年 4月 1日 ～ 令和 6年 3月31日

発行日 令和 6 年 6 月 28 日

小中出建設株式会社

1. 事業活動の概要

・ 事業者及び代表者名

事業者名	小中出建設株式会社
代表者名	代表取締役 小中出佳津良

・ 所在地 本 社 〒922-0861
石川県加賀市大聖寺地方町13-6-2

・ 環境管理者氏名及び担当者連絡先

責 任 者	代表取締役 小中出佳津良
担 当 者	総 務 部 瀧川留美子
連 絡 先	TEL 0761-72-0711 FAX 0761-73-4546 E-mail : info@konakade.co.jp URL : http://www.konakade.co.jp

・ 事業の内容

建築工事	一般建築、住宅の設計施工、公共建築の施工、建築物の解体
土木工事	道路建設、下水道建設、敷地造成等等土木一式工事の施工

※産業廃棄物収集運搬

許可番号 第 01708019780 号

許可の年月日 令和 6年 6月 27日

有効期限 令和 11年 6月 9日

事業の範囲 積替え、保管を除く。
汚泥(含水率85%以下のものに限る。)
廃プラスチック類
木くず
がれき類
(水銀含有ばいじん等であるものを除く)
(自動車等破砕物であるものを除く)

車の台数 1台

処理実績 無 (令和 5年 5月 現在)

・ 事業の規模

創 業	昭和 27年 10月 2日
資 本 金	2,000万円
従業員数	19名
事業年度	4月 ~ 3月

活動規模	単位	令和2年度	令和3年度	令和 4年度	令和 5年度
工事等の件数	件	338	330	344	328
売上高	百万円	1,066	846	641	722
従業員	人	20	19	19	19
事務所床面積	m ²	550	550	550	550
倉庫床面積	m ²	833	833	833	833
資機材置場面積	m ²	2,640	2,640	2,640	2,640
作業所等床面積	m ²	390	390	390	390

・ 対象範囲

1 認証・登録範囲

組 織 : 全組織

活 動 : 土木・建築工事の設計施工、建築物の解体

2 環境活動レポートの対象
期間及び発行日

令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日

令和 6年 6月 28日

2. 環境経営方針

経営理念

快適で安全な空間と環境の創造を通じて
地域社会の発展に貢献すると同時に、
全社員の自己実現と豊かな生活を追求する。

当社、小中出建設株式会社 は、地球環境の保全が人類のこれから生き抜く最重要課題と認識し、土木工事・建築工事の事業活動において、環境負荷を低減するために、

『環境と経営の共生』をスローガンとし環境保護活動を推進する。

以下の環境経営方針に基づき全従業員で活動を展開する。

(1) 当社の活動及びサービスに係わる環境側面を認識し、エコアクション21を構築し、

継続的改善を図ります。

(2) 環境に関する法令、条例及び受け入れを決めたその他要求事項を順守します。

(3) 土木・建築工事で発生する、建設資材及び建設廃材等の産業廃棄物は、現場の規模

に応じて分別回収に努力し、リサイクルを推進します。

(4) 車両・重機等の燃料及び電力の価格高騰に鑑み、その使用量の効率化に努め、二酸化

炭素排出量の削減を図ります。

(5) 水栓等水漏れチェックをこまめに行い、必要以上の水の使用量を削減します。

(6) この環境経営方針は、当社従業員に周知すると共に、一般の人にも公開します。

平成25年4月1日 制定

令和5年4月1日 改定

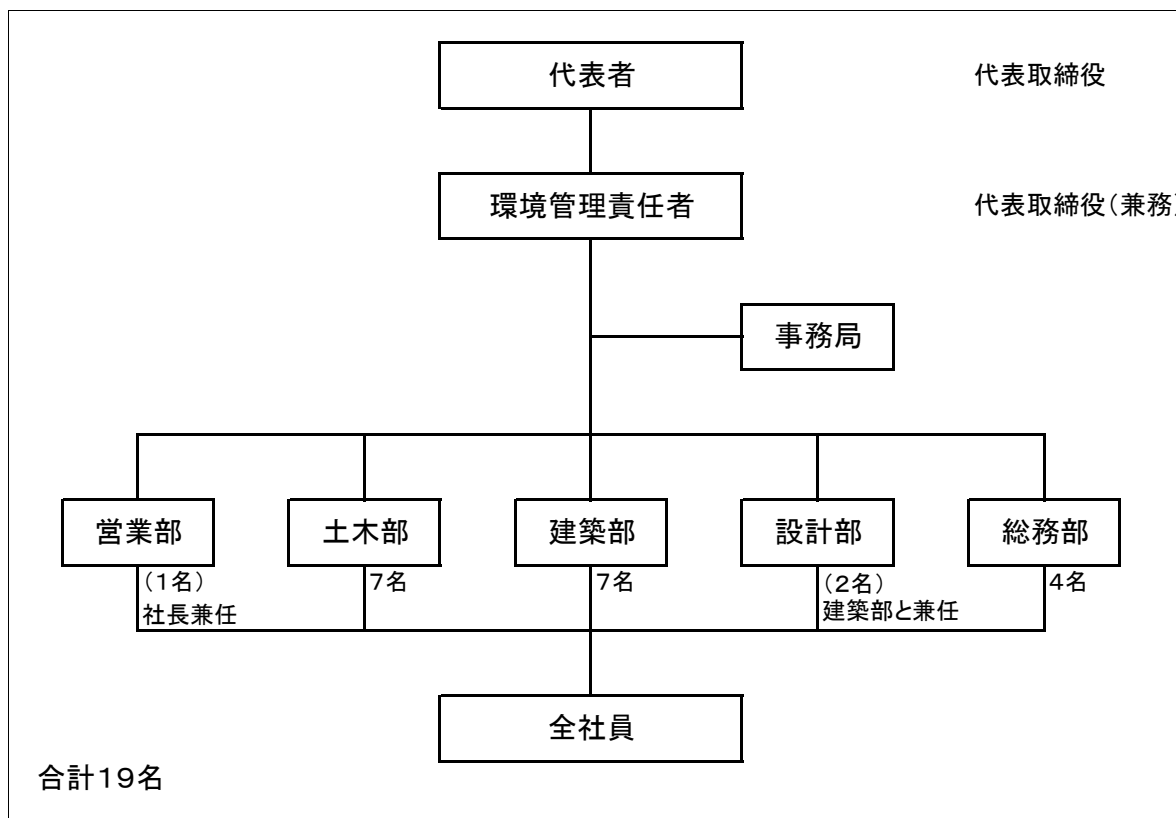
小中出建設株式会社

代表取締役 小中出佳津良

3. 推進体制

小中出建設株式会社
エコアクション21 推進体制表

令和5年4月1日



【責任者の役割】

代表者	環境経営方針の制定 環境保全に関する人、もの、金の提供 エコアクション21システムの評価見直し
環境管理責任者 (代表者兼任)	環境経営レポートの作成・公開 環境経営目標、計画の作成と進捗管理 環境関連法律の順守評価
事務局	環境管理責任者の補佐 進捗管理データ収集、整理
部門責任者	環境経営方針の周知徹底 環境経営計画の実施 環境経営目標の達成状況の確認
全社員	環境経営方針、環境経営計画を理解し、環境への取り組み実施

4. 環境経営目標

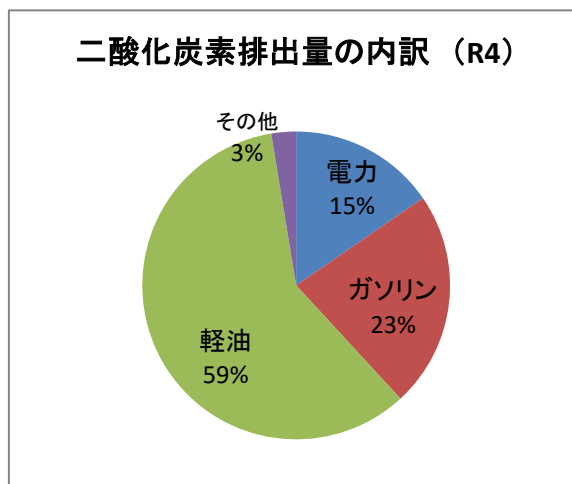
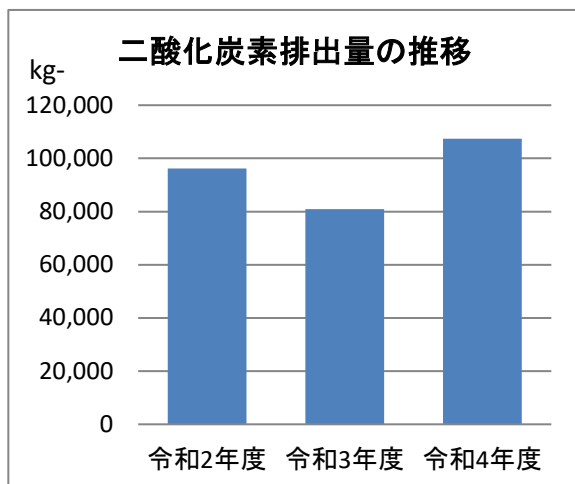
(過去3年間の実績)

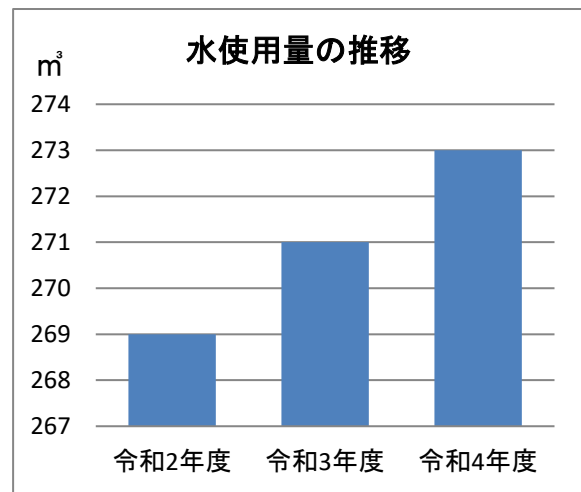
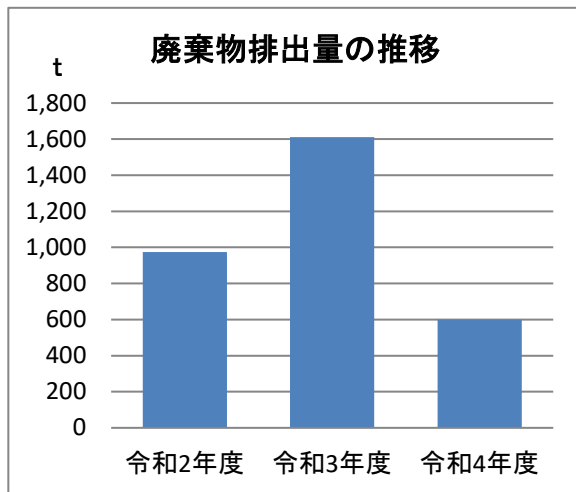
実績集計は当社事業年度4月～3月で行った。

	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	96,169	80,945	107,349
環境効率指数 (二酸化炭素/売上高)	kg-CO ₂ /百万円	90.2	95.7	167.5
電気使用量	kWh	26,351	25,407	26,254
電気使用量	kg-CO ₂	16,601	16,006	16,540
ガソリン	kg-CO ₂	25,397	24,374	24,414
軽油	kg-CO ₂	51,052	37,611	63,612
その他	kg-CO ₂	3,119	2,954	2,783
廃棄物排出量	t	974	1,612	600
リサイクル率	%	96	94	92
水使用量	m ³	269	271	273
環境に配慮した工法 (設計)の提案	件	1	1	1

※購入電力の二酸化炭素排出係数は北陸電力平成25年度実排出係数 0.630kg-CO₂/kWh を使用しました。

- ① 二酸化炭素排出量は重機・車両等で使用するガソリン・軽油が76%程度を占める。ガソリン使用量は安定しているが、当該年度の現場の状況による軽油の使用量によって増減する。
- ② 電気使用量は、節電意識も共有しており徐々に減少しているが、空調は健康維持の為、臨機応変に対応する。
- ③ 廃棄物排出量は当社が請け負った建設工事・解体工事で発生したコンクリートがら、アスファルトがら、がれき類等を対象とした。重量ベースでの測定はCo殻、As殻、廃木材の量で大きく変動する。今回は60%程度増加した。
- ④ リサイクル率は請負物件により変動するのが実状である。令和4年度も90%は達成できた。
(リサイクル率: 廃棄物等総排出量に対する再使用・再生利用できる循環資源量の重量比)
- ⑤ 水は市水であり飲料、手洗い、トイレに使うものが大半で、使用量縮小には限界がある。消雪にも使用した。
- ⑥ 環境に配慮した工法は、砕石パイル、CLT工法の実績がある。令和4年度は1件の提案に留まった。





(令和5年度の環境経営目標の設定)

令和5年度の目標は下記の通り設定する。

	単位	令和5年度目標	令和5年度設定の考え方
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	106,276	前年度実績比1%削減 =107,349×0.99=106,276
環境効率指数 (二酸化炭素/売上高)	kg-CO ₂ /百万円	165.8	前年度実績比1%削減 =167.5×0.99=165.8
電気使用量	kWh	25,991	前年度実績比1%削減 =26,254×0.99=25,991
廃棄物排出量	t	594	前年度実績比1%削減 =600×0.99=594
リサイクル率	%	90	中期目標値(90%)
水使用量	m³	270	前年度実績比1%削減 =273×0.99=270
環境に配慮した工法 (設計)の提案	件	1.0	前年度実績比2%増

5. 環境経営の取組み結果とその評価及び次年度(令和6年度)の取組み内容

	具体的取組内容	評価	次年度の取組	担当部署
二酸化炭素排出量削減 (電気使用量削減)	事務所内室温を冷房時27℃、暖房時23℃とする	△	継続	総務部
	冷暖房器具の使用時期の設定	△		総務部
	昼休み及び不在時の照明消灯・減灯	○		総務部
	OA機器の不必要時の電源切断・節電モードの徹底	○		総務部
	太陽光発電パネル(10kw)の運用	△		総務部
	機材入替時の省エネタイプの採用	○	買換え時	総務部
	(燃料使用量削減) 車両・重機の点検整備の徹底	○	継続	全社
	車両・重機の適正運転(アイドリング・空ぶかし無)	△		全社
	車両の効率的な運行(配車、道程)	△		全社
	車両入替時の省エネ車の導入	○	買換え時	総務部
廃棄物排出量削減 (一般廃棄物削減)	ストーブの使用は不在時の消火又は火力調整	△	継続	全社
	分別回収を徹底する	○	継続	総務部
	内部資料は、使用済み用紙の裏面の利用	○		全社
	両面・集約印刷を心がける	△		全社
	図面等の配布は電子媒体及びメールで行う	△		全社
	封筒再利用、トナー再利用等リサイクルの推進	○		総務部
	(産業廃棄物削減) 廃棄物の分別、再生利用・再資源化を推進	△	継続	土・建部
	(リサイクル率の向上) 廃棄物管理票(マニフェスト)に基づき適正処理徹底	○		土・建部
	資材の適正適量の把握・発注	○		土・建部
	草木等は仮置乾燥、汚泥は沈殿乾燥により減量化	△		土・建部
	廃棄物は適切な大きさに破碎による運搬回数の削減	○		土・建部
水使用量削減	水洗い時、水道水を出しっぱなしにしない	○	継続	全社
	節水を促す啓蒙表示をする	○		全社
	水道配管からの漏水の定期的な点検	△		総務部
環境に配慮した工法 提案	環境に配慮した工事・工法の提案	○	継続	営・設部
	エコキュート・LED等省エネ型機器のお客様への提案	△		営・設部
その他	会社周辺の清掃活動(年1回)	○	継続	全社

○取り組めた △ほぼ取り組めた ×取り組めなかった

第12回地域清掃ボランティア

加賀市大聖寺 古九谷の杜 R5年9月15日（金）



作業完了



6. 令和5年度の環境経営目標、実績と評価

	単位	令和5年度(4-3)		達成率	評価
		目標	実績		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	106,276	97,768	108.7%	○
環境効率指数 (二酸化炭素/売上高)	kg-CO ₂ /百万円	165.8	135.4	122.5%	○
電気使用量	kWh	25,991	21,772	119.4%	○
廃棄物排出量	t	594	1,487	40.0%	×
リサイクル率	%	90	89.5	99.4%	△
水使用量	m ³	270	264	102.3%	○
環境に配慮した工法 (設計)の提案	件	1	2	200.0%	○

※ 評価基準 達成 : ○、0~10%ほぼ達成 : △、10%~未達成 : ×

- ① 二酸化炭素排出量は電力量では昨年比で17%大幅減が大きい。これは一昨年よりも少ない。化石燃料も9%程度減少した。ガソリン、軽油共に7%減少した。軽油は工事の内容によって、コントロールできないこともあるが、ガソリンが減少したのは評価できる。
- ② 廃棄物排出量は、昨年比2.5倍と大きく増加した。これはRC造(銀行)の解体工事受注により、Co殻、AS殻、がれきが大幅に増えたことによる。リサイクル率はがれきが増えたことにより悪化した。
- ③ 本年は発生土の転用により有効利用が51%となった。
- ④ 水の使用量も過去4年、最小の値となったことは評価できる。
- ⑤ 砕石パイルによる地盤改良工法は2件採用できた。(新築案件全数対応)

7. 今後3年間の環境経営目標

	単位	令和5年度実績値	令和6年度目標	令和7年度目標	令和8年度目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	97,768	96,790	95,822	94,864
環境効率指数 (二酸化炭素/売上高)	kg-CO ₂ /百万円	135	134	133	131
電気使用量	kWh	21,772	21,554	21,339	21,125
廃棄物排出量	t	1,487	1,472	1,457	1,442
リサイクル率	%	90	90	90	90
水使用量	m ³	264	261	259	256
環境に配慮した工法 (設計)の提案	件	2	2	2	2

- ① 二酸化炭素排出総量及び原単位は、令和5年度実績を基準として、前年比1%削減とする。
- ② 電気使用量は、令和5年度実績値を基準として、前年比1%削減とする。
- ③ 廃棄物排出量は、令和5年度実績値を基準として、前年比1%削減とする。
- ④ リサイクル率は、90%以上を目標とする
- ⑤ 水の使用量は令和5年度実績を基準として、前年比1%削減とする。
- ⑥ 環境効率指数は、令和5年度実績値を基準として、前年比1%削減とする。
- ⑦ 自らが施工・販売・提供する工法(設計)及びサービスに関する環境配慮については、次の各号を推進し、採用件数は毎年2件を目標とする。
 - a. 国産材(県内産)を使用した住宅の促進
 - b. 人にやさしい自然素材の使用の推進
 - c. 土壌汚染を防ぎ、将来廃棄物とならない砕石パイルによる地盤改良工法の促進

8. 環境関連法規の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟などの有無

1) 適用となる環境関連法規

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)
大気汚染防止法
石綿障害予防規則
騒音規制法
振動規制法
道路運送車両法
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)

2) 違反、訴訟の有無

環境関連法規等の一覧表及びそれらの順守状況を確認した結果、環境関連法規の違反及び苦情等はありませんでした。
なお、関係当局より違反等の指摘、訴訟等は過去3年間一度もありませんでした。
環境関連法規に関しては自らが定期的に順守状況をチェックし順守していることを確認しています。

9. 代表者による全体評価と見直し指示の結果

受注型の建設業では、その年度での受注工事の内容(解体工事)や量によって環境に対する負荷が様々で、対前年比という評価が適当ではないかもしれませんが、会社活動に必要な固定的なエネルギーについては、昨年同様、年間通じての傾向に活動の成果が見て取れるようになりました。

・二酸化炭素排出量削減

二酸化炭素排出量の削減については、電気使用量は昨年比16.2%減と大幅に改善しました。
空調機の入替えにより、猛暑であったにも関わらず、使用量は抑えることができました。
太陽光発電のパワーコンディショナーの故障により発電停止期間がありました。
化石燃料については、ガソリンは7%減と減らすことができました。これは評価できます。
軽油の使用量も7%減らすことができました。当然工事の内容によりコントロールしにくい指標ですが、
昨年の計画通り、重機を一台入れ替えました。

・廃棄物排出量削減

廃棄物については、RC造の解体工事を受注し、Co殻、As殻、がれきが大幅に増えました。
リサイクル率もがれきが増えたことにより、昨年よりも悪化しました。

環境経営方針、環境経営目標・計画及び実施体制に関してはこのまま継続していきます。
電子マニフェストにほぼ変更しました。円高、人手不足等により、燃料を始め資機材の高騰が問題になります。環境を改善することが会社の存続に繋がるとしてより一層の法令順守を指示しました。

令和6年6月27日

代表取締役 小中出佳津良